

大学生の日常会話における 形容詞の語幹終止用法

原田幸一

1 はじめに

近年、大学生などの若年層の日常会話を観察していると、「寒い」や「寒い」などの形容詞を、「さむ。」や「すご。」などと使用する言い方が目立つ。本稿では、活用語尾を落とし語幹だけで文を終わらせる「さむ。」や「すご。」などの言い方を形容詞の「語幹終止用法」と呼ぶ。以下は、テレビCMなどからの例である。()内は注記、〈 〉内は対応する終止形を示す。

- (1) (ノンアルコールビールを飲んで) うま。〈旨い〉
- (2) (子供たちが大変な速さでカレーを食べ終わった様子を見て) はや。〈速い〉
- (3) (木の大変高いところにボールが引っかけたのを見て) うわ、たか。〈高い〉
- (4) (ビールを飲んで) あー、これうま。〈旨い〉
- (5) さらにうまっ!! 〈旨い〉

(1)から(4)はテレビCMで、20代から30代のスポーツ選手や歌手による発話である。(1)と(2)は感動詞が発話されないが、(3)と(4)は「うわ」と「あー」という感動詞が発話される。また、(1)から(3)は「何がどうだ」の「何」にあたる名詞が発話されないが、(4)は「これ」が発話される。(5)は電車内の広告である。(1)から(4)とは異なり、「さらに」という修飾語が発話される。

管見の限り、一定量のデータを用いて形容詞の語幹終止用法の使用実態を調査・分析する研究はない。そこで、本稿は、大学生の日常会話データを用い、形容詞の語幹終止用法の使用実態を調査・分析することを目的とする。

2 先行調査・研究

形容詞の語幹終止用法を扱う調査・研究はあまりない。本章では、文化庁による「国語に関する世論調査」と内省を中心とした分析である今野（2012）を解説する。

文化庁が2011年2月から3月に行った「国語に関する世論調査」には、「寒っ。」や「すごっ。」などの言い方に関する質問がある。文化庁（2011）を見ると、調査結果の概要が分かる。図1は、文化庁（2011）の「Ⅱ 調査結果の概要 7. 気になる言い方」（pp.32-37、137-141）を筆者がグラフ化したものである。この文化庁の調査は、全国の16歳以上の男女を対象とし、調査員による面接聴取法によって行われている。有効回収数（率）が2104人（60.4%）に上る大規模調査である。図1では、横軸を「寒っ。」などの語によってグループに分け、それぞれの語に対して年代項目を振った。年代は、16歳から19歳までを示す「16-19」から、70歳以上を示す「70-」まで7年代がある。図1によれば、調査対象の全ての語において、「気になる」（図1では「気」の折れ線）とする回答者の割合は全年代で45%以下である一方、「気にならない」（図1では「不気」の折れ線）とする回答者の割合は全年代で50%を超えている。全年代の半数以上が「気にならない」と回答したことが分かる。また、「使う」（図1では「使」の折れ線）の割合を見ると、「寒っ。」は全年代で40%以上であるが、それ以外の「すごっ。」や「短っ。」は、「寒っ。」の各年代と比べると、全体的に低い。ただ、全年代の半数以上で「気にならない」と回答されたことを考えると、「すごっ。」や「短っ。」についても、今後若年層（16歳から29歳）で使用者が更に増えること、若年層以外の年代で使用者が増えることは想像に難くない。更に、年代による使用率の異なり傾向（折れ線「使」の傾向）が、語によって明確に「寒っ。」とそれ以外という二つに分けられることにも注目したい。これは、「寒い」が感情形容詞でそれ以外の四つが属性形容詞であることと関連があると考えられる。感情形容詞で使用率が高く属性形容詞で使用率が低いことは、「感情形容詞では以前から使用されていたので使用率が高く、属性形容詞では最近使用が目立ち始めたので使用率が低い」と解釈可能であり、「寒い」などの感情形容詞では以前から「寒っ。」などの言い方が記述されていたことも矛盾しない⁽¹⁾。感情形容詞と属性形容詞の分類は、分析上重要な観点となろう。

今野（2012）は、形容詞語幹が語幹末に声門の閉鎖を伴って発話され、形容詞終止形活用語尾イが現れない「ださっ。」や「短っ。」などの言い方を「イ落ち構文」と呼び、イ落ち構文を内省に基づき分析している。今野は、イ落ち構文を「主語—述語構造を備えた句

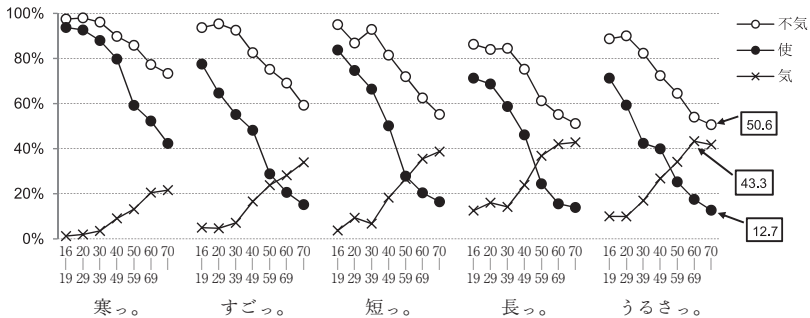


図1 文化庁による「寒っ。」や「すごっ。」などの言い方に関する調査結果を筆者がグラフ化した図

レベルの表現」とし (p. 8)、その統語構造を以下のように示している (p. 15 の(26))。

(6) [AP [*埋め込み] (主語名詞句) 形容詞語幹 [+声門閉鎖]]

(6)で、丸括弧は当該要素が省略可能であることを示し、「[*埋め込み]」はイ落ち構文が主節現象であることを示す。(6)が正しいとすると、日本語で小節 (small clause: 主語一述語構造) が主節として用いられる場合があることを示す証拠となることなどを主張している。また、「イ落ち構文が表す話者の感覚や判断は直感的なものが基本で」、「瞬時には判断したり感じたりしにくい理性と関連する形容詞は、イ落ち構文では用いられにくい」とし (p. 17)、イ落ち構文の機能的特徴を以下のようにまとめている (p. 21)。

(7) イ落ち構文は、話者が、眼前の事態や対象に対し、瞬間的現在時の直感的な感覚や判断を表出する私的表現行為専用の構文である。

今野は、形容詞語幹が語幹末に声門閉鎖を伴う場合のみを対象としたが、本稿では、形容詞の語幹終止用法の使用実態をより包括的に捉えるため、声門閉鎖を伴う例以外も分析の対象とする (分析の範囲は 4.1 で解説)。(6)の設定は、既存の言語理論への貢献は大きいと思われるが、本稿では前提としない (従って、形容詞の語幹終止用法が「主語一述語を備えた句レベルの表現」であることなどを前提としない)。日常会話データを用いて使用実態を調査・分析することを目的とするからである。今野 (2012) では、(3)または(4)のような感動詞を伴う例についての分析と(5)のような修飾語を伴う例についての分析が手薄である。本稿では感動詞と修飾語の使用実態の調査も行う。また、今野は、「イ落ち構文は質問への返答として用いることができない」とし、以下の例は容認されないとする (p. 20 の(39))。

(8) A: このパン食べてみてよ。おいしいでしょ?

B: *うん、うまっ。(cf. うん、うまい (よ。))

しかし、筆者の内省では(8)は容認される。これに関して、5章で、筆者が分析に用いる日常会話データから見出される例によっても(8)は容認されること、(8)の容認によって(7)が形容詞の「語幹終止用法」には該当しないことを主張する。

本稿は、日常会話という特定のジャンルの一定量のデータをもとに、形容詞の語幹終止用法の使用実態を調査・分析することを目的とするものであるため、収集した例にもとづく用法の抽象化は今後の課題とする。

3 データ

本稿では、筆者が2009年と2010年に収集した大学生による日常会話データを用いる。首都圏の大学に通う大学生130人(男性76人、女性54人)に協力を仰ぎ、合計53時間半の日常会話を収録させてもらった。親しい友人同士の2人から5人で1組を構成してもらい(全部で51組)、1組あたり約1時間の会話を収録した。協力者の収録当時の年齢は26歳の1人と25歳の1人を除けば、全員18歳から22歳までに収まっている。

会話の収録は、承諾を得た上で、ビデオカメラとICレコーダーを用いて行った。承諾の関係上、ICレコーダーで音声の収録のみを行った場合もある。収録の場所は大学内の教室や研究室である。親しい友人同士のできる限り自然な日常会話を収録することを目指すため、飲食や携帯電話の操作などを禁じはしなかった。話したい内容を自由に話してもらうため、筆者から協力者に対し話題を特別に指定することもしなかった。

4 分析方法

4.1 形容詞の語幹終止用法の定義

本稿では、「語幹終止用法」を以下のように定義し、分析を進める。

(9) 活用語尾を伴わず語幹で文(または引用句)を終わらせる言い方。

語幹は以下aからcまでの形式が存在し、aからcまでの全ての場合を含む。

- a. 語幹がそのまま発話される すぐ。
- b. 語幹末母音が引き伸ばされる すぐー。
- c. aとbで語幹内部に促音が挿入される すっご。・すっごー。

語幹終止用法に関して、「すごっ。」などと促音の「っ」が語幹末直後に記載されることはよく見られる。しかし、実際の会話では調音器官の閉鎖を特に伴わずに「すご。」などと発話されることも普通であることと、文末では調音器官の閉鎖の有無を聞き分けるのが難

しいことから、本稿では文末における調音器官の閉鎖の有無を厳密に書き分けることは行わない。基本的に「すご。」などと記す。

形容詞は以下のように語末の母音が融合されることがある。

(10) やばい——母音 [ai] が融合して [e:] → やべー

すごい——母音 [oi] が融合して [e:] → すげー

さむい——母音 [ui] の融合して [i:] → さみー

そして、母音が融合した「やべー」に対応する「やべ。」の使用も珍しくない。本稿では「やべ。」・「すげ。」なども語幹終止用法として分析の対象とする。というのも、「すげくない」などの使用があり、この場合、以下(11)に示すように、「すげ」を語幹として再分析していると考えられるからである。

(11) 形容詞：ナイ形：語幹 = すごい：すごくない：すご

形容詞：ナイ形：語幹 = すげー：すげくない：すげ

ただし、「やべー」・「すげー。」などの母音融合形は(9)bと見なさず、分析の対象としない。以下(12a)のように、母音融合形には終助詞が後接する例があり、(12a)がちょうど形容詞終止形に終助詞が後接した例(12b)と対応し、母音融合形が終助詞の後接が可能である終止形相当形式と見なせるからである。「やべ」・「すげ」などの母音融合形由来語幹には、「やば」・「すご」などの語幹に終助詞が後接する例がないのと同じく、終助詞が後接する例はない。

(12) a. やべーな／よ。 すげーな／よ。

b. やばいな／よ。 すごいな／よ。

4.2 感情形容詞と属性形容詞

形容詞は大きく感情形容詞と属性形容詞に分けられる。西尾(1972)は、感情形容詞と属性形容詞を以下のように定義している(p.21)。

(13) 感情形容詞：人間の主観的な感覚・感情を表すもの

属性形容詞：ものや人の性質や状態、動きのようすなどを表わし、客観的な性質・状態の表現をなすもの

寺村(1982)は、以下の分析を行い、「いわゆる感情の形容詞のほとんどは、いわゆる感情の直接表出の文の中だけでなく、対象の一般的性質を述べるのにも使い得る」としている(p.150-151)。

(14) a. X(感情主)ガ／ニ Y(対象)ガ コワイ／ウレシイ(コト)

b. (Xハ) Yガ コワイ／ウレシイ

c. マムシハコワイ

コト(14a)で、感情の主体が主題化したのが(14b)である。(14b)で、感情の対象Yが主題化し感情の主体が隠れれば(14c)となる。この分析によれば、感情形容詞のほとんどが対象の属性を表せる。

村上(2012)は、寺村の指摘を受け、感情形容詞を「感情・感覚を表し得る形容詞」(p.21)と定義し、感情形容詞が属性を表す指標を明確にしている。以下は、村上の挙げた指標である(p.26)。

- (15) 指標1:「花子は、～そうだ(だった)」が「内部ソウダ」として適格文になる
- 指標2:「花子は、～そうに～する(した)」が「内部ソウダ」として適格文になる
- 指標3:「～そうな名詞」が「外部ソウダ」にならない

この指標に従い、形容詞を4分類し、4分類の概略を示したのが、表1(村上2012:26の表1を筆者がまとめた)である。表1で、形容詞の前に振っているIからIVの数字は、数字が小さいほど感情形容詞らしい形容詞であり、数字が大きいくほど属性形容詞らしい形容詞であることを示す。つまり、数字がIVである「明るい」は典型的な属性形容詞となる。

表1 村上(2012)による「形容詞分類の概略」

	指標1	指標2	指標3
I 悲しい	○	○	○
II 寒い	○	○	×
III うるさい	×	○	
IV 明るい	×	×	

本稿は、5.1で(15)の指標を援用し形容詞に対する特徴づけを行う。5.2で(3)のように感動詞を伴う例、5.3で(4)のように名詞を伴う例、5.4で(5)のように修飾語を伴う例を扱う。更に、5.5で引用句内での使用を扱う。(16)のように、形容詞の語幹終止用法は引用句内での使用があるからである。

- (16) 気持ちわるって思った。〈気持ち悪い〉

5 調査・分析

5.1 語幹終止用法で使用される形容詞

調査の結果、形容詞の語幹終止用法は381例得られた。「こわこわこわ。」などと語幹が間にポーズを挟まず重ねて使用される場合、「こわこわこわ。」で1例とした。語幹終止用法で使用された形容詞をまとめたのが表2である。表2の「形容詞」列には、形容詞の終止形を示し、「分類」列には、村上(2012)によるIからIVまでの形容詞の分類を示した(判断に迷うものには「?」を付した)。「頻度」列の括弧内の数字は、内数で母音融合形

表2 語幹終止用法で使用された形容詞

形容詞	分類	頻度	形容詞	分類	頻度	形容詞	分類	頻度
やばい	?	93 (22)	旨い	Ⅲ	2 (1)	薄い	Ⅳ	1 ()
凄い	Ⅳ	37 (8)	低い	Ⅳ	2 ()	せこい	Ⅳ	1 ()
怖い	Ⅱ	25 ()	長い	Ⅳ	2 ()	上手い	Ⅳ	1 ()
気持ち悪い	Ⅱ	20 (2)	若い	Ⅳ	2 ()	嬉しい	Ⅰ	1 ()
早い・速い	Ⅳ	19 ()	強い	Ⅳ	2 (2)	見づらい	Ⅱ	1 ()
きもい* ¹	Ⅱ	13 ()	弱い	Ⅳ	2 ()	眠たい	Ⅱ	1 ()
うざい	Ⅱ	13 (2)	重い	Ⅳ	2 ()	寂しい	Ⅱ	1 ()
めんどくさい	Ⅱ	13 (5)	多い	Ⅳ	2 ()	おもしろい	Ⅲ	1 ()
きつい	Ⅱ	11 ()	熱い* ⁴	Ⅳ	2 ()	優しい	Ⅳ	1 ()
しょうもない	Ⅳ	8 ()	めんどい* ⁵	Ⅱ	2 ()	冷たい* ⁹	Ⅳ	1 ()
安い	Ⅳ	7 ()	汚い	Ⅳ	2 ()	可愛い	Ⅳ	1 ()
面白い	Ⅲ	6 (3)	小さい	Ⅳ	2 ()	無理っばい	Ⅳ	1 ()
高い	Ⅳ	6 ()	ちっちゃい	Ⅳ	2 ()	詳しい	Ⅳ	1 ()
痛い	Ⅱ	5 (2)	危ない	Ⅳ	2 (1)	うざったい	Ⅱ	1 ()
でかい	Ⅳ	5 ()	羨ましい* ⁶	Ⅰ	2 ()	懐かしい	Ⅲ	1 ()
ださい	Ⅳ	5 (1)	絡みづらい	Ⅱ	2 ()	半端ない	Ⅳ	1 ()
偉い	Ⅳ	4 ()	はずい* ⁷	Ⅰ	1 ()	趣味悪い	Ⅳ	1 ()
恥ずかしい	Ⅰ	4 ()	暑い	Ⅱ	1 ()	分かりづらい	Ⅱ	1 ()
かっこいい* ²	Ⅳ	4 (1)	寒い	Ⅱ	1 ()	返しづらい	Ⅱ	1 ()
ひどい	Ⅳ	3 (1)	きしょい* ⁸	Ⅱ	1 ()	勿体無い	Ⅲ	1 ()
むずい* ³	Ⅳ	3 ()	痒い	Ⅱ	1 ()	どうでもいい	Ⅲ	1 ()
暗い	Ⅳ	3 ()	だるい	Ⅱ	1 ()	わざとらしい	Ⅳ	1 ()
きまぐれ	Ⅰ	3 ()	えぐい	Ⅲ?	1 ()	分かりやすい	Ⅳ	1 ()
眠い	Ⅱ	2 ()	まずい	Ⅲ	1 ()			
つらい	Ⅱ	2 ()	浅い	Ⅳ	1 ()			
からい	Ⅱ	2 ()	緩い	Ⅳ	1 ()			
						計 381 (51)		

*1 「気持ち悪い」の短縮語 *2 母音融合形由来語幹は「かっけ」である。

*3 「難しい」の短縮語 *4 「人の関心を集めている」といった意味の「熱い」である。

*5 「めんどくさい」の短縮語 *6 「うらやまし。」が1例と「うらやま。」が1例。

*7 「恥ずかしい」の短縮語 *8 「気色悪い」の短縮語

*9 「思いやりがない」といった意味の「冷たい」である。

由来語幹の使用頻度を示す。

表2の「分類」列によれば、IからIVまでの全ての分類で語幹終止用法が使用されることが分かる。

5.2 形容詞の語幹終止用法とともに使用される感動詞

形容詞の語幹終止用法とともに感動詞が使用される例は59例あった(381例中59例:15.5%)。使用された感動詞を表3に示す。表3では、語幹終止用法の使用の瞬時性(使用の契機となる感覚・対象に遭遇した後、どの程度瞬時的に語幹終止用法が使用されたか)が異なると考え、感動詞の語末の引き伸ばしが無いものと有るもの(例えば「あ」と「あー」)

表3 形容詞の語幹終止用法とともに使用された感動詞

感動詞	頻度	感動詞	頻度	感動詞	頻度
えー	13	わー	1	ん	1
あー	8	わ	1	うー	1
あ	8	ひー	1	おー	1
え	7	ひえー	1	はー	1
うわー	6	うん	1	計59 (感動詞なし: 322)	
うわ	4	いやー	1		
へー	2	いや	1		

は分けて記載している。表3によれば、「え(-)」「あ(-)」「うわ(-)」が主に使用されることが分かる。以下、例を挙げる(対話形式で例を示す場合、語幹終止用法の話者をSとし、聞き手をLとする)。

- (17) L: 250人弱ぐらい。 S: えー、すご。〈凄い〉
 (18) L: うちら五人だよ。五人五人。 S: え、おお。〈多い〉
 (19) あー、眠た。〈眠たい〉
 (20) (携帯を見ながら) あ、やば。〈やばい〉
 (21) L: メールが来てー、これ怖いと思って。 S: うわー、やば。〈やばい〉
 (22) (外を見て) うわ、外くら。〈暗い〉

5.3 形容詞の語幹終止用法とともに使用される名詞

形容詞の語幹終止用法とともに名詞が使用される例は39例あった(381例中39例:10.2%)。使用された名詞を表4に示す。形容詞との関係を表す標識を名詞が伴う例が4例あった。以下に例を挙げる。

- (23) 注意する奴とかまじうご。〈うざい〉
 (24) (大学の友人と話す中、地元が同じであることが分かり、更に偶然同じマンションに住んでいたことが分かって) 結局同じマンションとか気持ちわる。〈気持ち悪い〉

表4 形容詞の語幹終止用法とともに使用された名詞

名詞	頻度	名詞	頻度	名詞	頻度
それ	4	こいつ	1	おま(お前)	1
これ	3	あいつ	1	普通名詞・固有名詞	1(×29)
計 39 (名詞なし: 342)					

(25) H(仮名)がね、まじつえ。〈強い(母音融合形「つえー」)〉

(26) (情報が、インターネットのサイトより)新聞のほうのがはやーとか思ったもん。〈速い〉
 主題の標識と考えられる「とか」を伴う例が(23)と(24)である。(25)は主語の標識「が」を伴う
 例で、(26)は比較を表す標識「のほうが」を伴う例である。

5.4 形容詞の語幹終止用法とともに使用される修飾語

形容詞の語幹終止用法とともに
 に修飾語が使用される例は26
 例あった(381例中26例:6.8
 %)。使用された修飾語を表5
 に示す。表5によれば、程度の
 甚だしいことを表す「まじ」や
 「めっちゃ」の他に、「もう」や

表5 形容詞の語幹終止用法に伴って使用された修飾語

修飾語	頻度	修飾語	頻度	修飾語	頻度
まじ	9	もう	2	ちょっと	1
めっちゃ	5	すごい	1	たしかに	1
超	3	なんか	1	計 26	
激	2	なんか超	1	(修飾語なし: 355)	

「なんか」などの修飾語が使用されていることが分かる。以下に、「もう」・「なんか」・「ち
 ょっと」・「たしかに」の例を示す。

(27) S:(入口のドアを)閉めて。L:え、閉めたの?

S:hhh もうめんどくさーと思ったから。〈めんどくさい〉

(28) なんかさびし。〈寂しい〉

(29) ちょっとおもしろ。〈面白い〉

(30) L:(外を見て)うわ、外くら。S:くら、たしかに。〈暗い〉

5.5 引用句内で使用される形容詞の語幹終止用法

形容詞の語幹終止用法が「と思う」や「と言う」などによって導かれる引用句内で使用
 される例は43例あった(381例中43例:11.3%)。以下に例を示す(前掲の(16)・(26)・(27)も
 該当例である)。

(31) まじこわっか思っ。〈怖い〉

(32) あつっとか言っでなんか脱いでー、〈暑い〉

(33) 防御力超よわっていう hhh 〈弱い〉

(34) バイクちっさってというような原付で向こうから来てー、で、鞆でかみたいな。した
らー、J君（仮名）でー、〈小さい・でかい〉

引用句内での形容詞の語幹終止用法は、基本的に過去の経験を語る中で使用されることが分かる。以下のように、仮定を語る中で使用されることもある。

(35) 本気で言ってんの？ あ、趣味わるっとかみたいなきじになったら嫌だからー、
〈趣味悪い〉

(36) 終わったらー、もうめんどくせつつって、やめちゃうよね。
〈めんどくさい（母音融合形「めんどくせー」）〉

6 考察

6.1 属性形容詞における語幹終止用法の使用

5.1の表2で形容詞に振ったIVは典型的な属性形容詞を表すが、表2の調査により、「すごい」や「短い」の他、「ださい」・「暗い」・「浅い」・「緩い」など、幅広い属性形容詞において語幹終止用法が使用されることが分かった。また、「絡みづらい」・「見づらい」・「分かりづらい」・「分かりやすい」・「無理っばい」などのように接尾辞が付いて形容詞のように振る舞う語においても語幹終止用法が使用されることが分かった。首都圏の若年層において、感情形容詞から典型的な属性形容詞まで、幅広い範囲の形容詞で語幹終止用法が使用されることが示された。

6.2 形容詞の語幹終止用法における瞬時性

5.2では、形容詞の語幹終止用法とともに感動詞が使用される例は59例（381例中59例：15.5%）あり、「え」・「あ」・「うわ」などの語末の引き伸ばしの無い感動詞だけでなく、「えー」・「あー」・「うわー」などの語末の引き伸ばしの有る感動詞が使用されることが明らかとなった。感動詞における語末の引き伸ばしの有無は、語幹終止用法が使用される際の瞬時性の異なりを表すと考えられる。以下の例を見られたい（前掲19と20の再掲）。

(37) あー、眠た。〈眠たい〉

(38) （携帯を見ながら）あ、やば。〈やばい〉

37の「あー」では、「眠たい」と感じるその感覚を実感しながらの発話であることが表され、瞬時性が低い。一方、38の「あ」は、携帯を見ながら何か気づいたことが瞬間的に表され、瞬時性が高い。37は、瞬時性が低い場合でも形容詞の語幹終止用法が用いられる

ことを示す。このことは、以下の「へー」や「いやー」などの例でも分かる。

(39) L: なんか、小平(地名)で練習してるらしいよ。

S: へー、めんどくさ。〈めんどくさい〉

(40) L: (サークルに) 入ったら、失敗だった。

S: いやー、(サークル選びは) むず。〈むずい〉

(39)では、「へー」によって、小平で練習していることを初めて知ってその情報を受け止めている最中であることが示される。(40)では、「いやー」によって、サークル選びが難しいということ、Lの発話を契機として、改めて実感していることが示されている。いずれも瞬時性が低い場合でも形容詞の語幹終止用法が用いられることを示す。

これまでの考察から、形容詞の語幹終止用法の使用における瞬時性には瞬時性の高い場合から瞬時性の低い場合があり、語幹終止用法の使用は特に瞬間的な感覚や判断に限らないことが明らかとなった。語幹終止用法の使用に関して、瞬時性は程度の問題だと考えられる。

6.3 形容詞の語幹終止用法における「私的表現」性

形容詞の語幹終止用法は、以下のように、聞き手Lの発話に対して同意する発話の中で使用されることがある(42は30の再掲)。

(41) L: でもこれやべーな。S: うん、やべやべ。〈やばい(母音融合形「やべー」)〉

(42) L: (外を見て) うわ、外くら。S: くら、たしかに。〈暗い〉

(41)では、Lが表明した「これがやばい」という評価に対して、Sがまず「うん」と回答し、「やべやべ。」と語幹終止用法を使用している。「やべ」は「やばい」の母音融合形由来語幹であり、Lが発話した「やべー」と同じ形容詞である。従って、Sが「やべやべ。」と発話することは、Lの発話に同意を示すことになっている。(42)でも同様で、Lが表明した「外が暗い」という内容に対して、Sは「くら」とまず発話し、その後「たしかに」という同意を表す語を発話している。Sの発話は、Lの発話に同意を示すことになっている。これらは筆者の内省でも容認される。

(41)と(42)のように、聞き手に対して同意する発話の中での使用が見られることは、形容詞の語幹終止用法が、聞き手への伝達に関係する機能を持ちうることを表している。従って、今野(2012)が「イ落ち構文」について示した(7)における「私的表現行為専用の構文」という部分は、本稿の「形容詞の語幹終止用法」には該当しない。「語幹終止用法」に対して、「私的表現」という概念を適用するならば、それはあくまで「私的表現」性が高いか低いかという程度の問題なのではないかと思われる。

6.4 形容詞の語幹終止用法の形容動詞化

形容詞の語幹終止用法には、以下のような形容動詞化の現象が見られる。

(43) 激ウマな沖繩カレーを紹介させていただきます 〈旨い〉

(44) 鶏胸肉でも激ウマだよ！ 〈旨い〉

このような現象は、本稿のデータでは、「熱い」に見られた。以下に、「熱い」の語幹終止用法の例とそれが形容動詞化した例を挙げておく。

(45) 激あつ。

(46) 激あつだ。

(47) 激あつだったな。

(45)は、「熱い」が修飾語「激」を伴って語幹終止用法で使用された例である。(46)は、(45)が形容動詞化し「激あつだ」と使用された例である。(47)は、「激あつだ」が過去形「激あつだった」で使用された例である。この現象が今回、形容詞「熱い」に限られたことを考えると、特に「激あつ」が、データ収集当時（2009年と2010年）に使用される表現で、いわゆる流行り言葉である可能性はある⁽²⁾。

7 まとめ

本稿は、首都圏の大学生の日常会話をデータとし、形容詞の語幹終止用法の使用実態を調査・分析した。以下のことが明らかとなった。

- ア. 形容詞の語幹終止用法は、典型的な感情形容詞から典型的な属性形容詞までの幅広い形容詞において見られる用法である。
- イ. 形容詞の語幹終止用法は感動詞を伴う場合があり、伴われる感動詞は「え（－）」・「あ（－）」・「うわ（－）」が代表的である。
- ウ. 形容詞の語幹終止用法は名詞を伴う場合があり、更にその名詞に形容詞との関係を表す「とか」・「が」・「のほうが」という標識が付く場合がある。
- エ. 形容詞の語幹終止用法は修飾語を伴う場合があり、程度の甚だしいことを表す「まじ」・「めっちゃ」の他に、「もう」・「なんか」・「ちょっと」などの修飾語が使用される。
- オ. 形容詞の語幹終止用法が「と思う」・「と言う」などによって導かれる引用句内で使用される場合があり、過去の経験を語る場面か仮定を語る場面で使用される。
- カ. 形容詞の語幹終止用法における瞬時性は程度の問題である。
- キ. 形容詞の語幹終止用法における「私的表現」性は程度の問題である。

ク. 形容詞「熱い」の語幹終止用法に、「激あつだ。」などの形容動詞化が見られる。

形容詞の語幹終止用法には、4.1の(9)で示した形式の異なりがある。(9)aから(9)cまでの形式によって機能的な異なりが見られるのかを調査・分析することを課題としたい。また、形容詞の語幹終止用法と関連すると考えられる以下のような例がある。

(48) MBA 取りて。

(49) やべ行きてって思ってさー、(教室の)前の方。

(48)と(49)は、動詞に願望の「たい」が付いた「Vたい」が母音融合を起こした「Vてー」の語幹終止用法の例である。関連する例を含めて調査・分析を行うことも今後の課題としたい。

注

(1) 飯豊(1973)は、「いたっ!(痛)」「あつっ!(熱)」「くさ!(臭)」「うれし!(嬉)」などの例を挙げ、「現代語においては、このような用法を持つ語種は限られているようである。つまり、なりやすい語とそうでないものがあるようである。「痛い・熱い・冷たい・寒い」「辛い・渋い・甘い・苦い・煙い」などの感覚的なものや、「こわい・恐ろしい・嬉しい・楽しい・おかしい・くやしい」などの感情を表すものに多く見られるといえそうである」としている(p.166)。

(2) 匿名の査読者により、「激ー」の問題である可能性があるとのこと指摘をいただいた。本稿のデータにおいて「あつだ/な」の例はない。筆者の内省によると、「やばだ/な」・「あつだ/な」・「うまだ/な」などは容認されず、「マジやばだ/な」・「激あつだ/な」・「ちゅうまだ/な」などは容認される。今後は、修飾語句との関連も考慮に入れた分析を行う必要がある。

参考文献

飯豊毅一(1973)「形容詞・形容動詞の語幹・各活用形の用法」鈴木一彦・林巨樹(編)『品詞別日本文法講座4 形容詞・形容動詞』くろしお出版 pp.163-206.

今野弘章 (2012) 「イ落ち：形と意味のインターフェイスの観点から」『言語研究』141 pp. 5-31.

寺村秀夫 (1982) 『日本語のシンタクスと意味 I』くろしお出版.

西尾寅弥 (1972) 『国立国語研究所報告 44 形容詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版.

文化庁 (2011) 『平成 22 年度 国語に関する世論調査 現代の国語をめぐる諸問題』ぎょうせい.

村上佳恵 (2012) 「現代日本語の形容詞分類について—— 様態のソウダを用いて——」『日本語文法』12 巻 1 号 くろしお出版 pp. 20-36.

用例出典

(1) アサヒビール株式会社「アサヒドライゼロ」TVCM「POP&&DRY 実感」篇, 2012 年 8 月視聴

(2) ハウス食品株式会社「パーモントカレー」TVCM「青空パーモント」篇, 2012 年 7 月視聴

(3) 大塚製薬株式会社「オロナミンC」TVCM「スーパー大車輪」篇, 2012 年 8 月視聴

(4) サントリーホールディングス株式会社「ザ・プレミアム・モルツ」TVCM「プレミアム誕生」篇, 2012 年 3 月視聴

(5) 株式会社ビックルスコーポレーション「ご飯がススム キムチ」電車広告, 2012 年 4 月視認

(43) <http://www.jalan.net/yad371653/blog/entry0001873598.html> (アクセス日: 2012 年 8 月 26 日)

(44) <http://cookpad.com/recipe/1914670> (アクセス日: 2012 年 8 月 26 日)

謝辞

本稿は、2012 年日本語教育国際研究大会 (2012 年 8 月 18 日、名古屋大学) におけるポスター発表の内容を大幅に修正したものです。執筆にあたり、韓国外国語大学校の張希朱氏に多くの建設的なコメントを頂きました。また、査読の段階で、匿名の査読者から有益なコメ

ントを賜りました。ここに記して、感謝の意を表します。会話データの収集にご協力くださいました大学生の皆様にも心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

(はらだ こういち／博士後期課程)